



プロジェクト課題No.1

次代を担う生産者の育成による 梨産地活性化

活動期間：令和5年度～令和7年度

対象者：JA仙台利府梨部会 部会員4人（同部会員61人）

チーム員：高橋真紀、高橋晋太郎、佐藤篤

1 課題の背景・ねらい

(1) 背景

- ・ J A 仙台利府梨部会員は61人、面積は約20ha。園主の高齢化等の問題がある。
- ・ 利府梨の需要は高く、足りない状態。園地承継・拡大が望まれている。
- ・ 支援対象者の4名は、新技術・省力化技術等への関心が高く、重要な担い手として育成することにより産地の活性化に貢献できる。
- ・ 利府町の積極的な支援により、国・町の補助事業や地域おこし協力隊の採用などがある。

(2) ねらい

【定量的数値目標】 支援対象者の目的に沿った新技術等導入の増加数 現況

(R5) 2件 → R6：4件 → R7：6件

- ・ 新技術や新品種が導入され、梨の収量・品質が向上する。
- ・ 担い手の交流活動が定着し、自発的な取組が行われるようになり、産地が活性化
する。

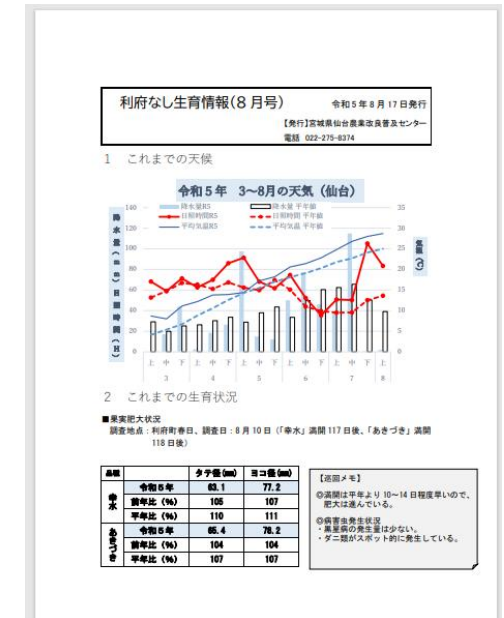
2 活動内容

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

①省力化・新技術導入

目的	期待される効果	内容(技術)
販売時期の分散、前進	話題性・新規性	早生品種「甘ひびき」の導入
収穫時期前進	「幸水」の収穫期前進・果実肥大促進 新梢の伸長	ジベレリンペースト処理
環境にやさしい防除	農薬散布回数と労働力の軽減、 (経費削減)	天敵ダニ製剤の活用 コンフューザーの活用
収穫物の保護 農作業の軽労化 農作業事故防止	毎年の防鳥ネットの張替えが省略できる。	防鳥ワイヤー

②技術情報資料発行



JAを通じて梨部会
員全戸配布

2 活動内容

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

③視察研修・現地検討会の開催



【普及協力員によるV字ジョイント栽培紹介】
新規就農者が検討しているV字ジョイント栽培
に関する視察を実施



【天敵ダニ製剤の活用】
昨年導入し、成果があった生産者の圃場
で現地検討会の開催（藤田地区）

2 活動内容

(2) 担い手の交流活動の促進



【視察研修】

7/23, 24 茨城県下妻市と栃木県佐野市へ視察研修を行った。写真は天敵ダニ製剤を導入している圃場。

(3) 産地活性化に向けた補助事業の活用支援



【実際に導入した農家へ情報収集】

登米のりんご農家へ訪問し、V字ジョイント栽培の実際を調査支援

3 これまでの活動成果

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進



梨栽培2年目の地域おこし協力隊が天敵ダニ製剤を導入し、使いこなしていることを確認。

ダニ類の防除回数は
去年は7回→今年は(いまのところ)2回！



その他、期待の早生品種「甘ひびき」の導入など。慣行栽培では5年たってもほとんど結実しないが、果実が大きく、味が良いので期待が高い。直売所向き品種。

【甘ひびき】

【天敵ダニ導入圃場での現地検討会8/1】
(みどり戦略) グリサポ事業での試験的導入。

3 これまでの活動成果

(2) 担い手の交流活動の促進



茨城県下妻市果樹組合連合会青年部長を務める塚田氏（右）と茨城県筑西地域農業改良普及センター安嶋課長（左）

(3) 産地活性化に向けた 計画策定支援

来年度、新規就農者が新規園地を開園し、V字ジョイント栽培を導入予定。



ジョイント栽培での「甘ひびき」着果している 6

4 今後の対応

(1) 安定生産・高品質化技術の理解促進

- ・引き続き新技術導入の調査支援、効果測定を行っていく
- ・「生育情報」で技術の効果、内容を情報発信する
- ・土づくり研修会（11月頃）

(2) 担い手の交流活動への理解促進

- ・県なし栽培研修会（12月）
- ・栽培振り返り研修会の開催（2月）



(3) 産地活性化に向けた補助事業の活用支援

- ・来年度に向けて事業活用者の掘り起こしと働きかけ